

特集 宮部みゆき「時代小説」の世界

インタビュー 宮部みゆき

6 第一部 浪人の恋と家族の難しさを描いた最新作『桜ほうさら』
36 第二部 翻訳調の文体で江戸ものを書いた岡本綺堂きどうに近づきたい



ブックガイド

20 怪談・捕物帳から人情話まで



「闇」と「光」を描く時代小説作品16

末國善己

コラム 『桜ほうさら』をより楽しむために

①ひと目でわかる人物相関図／②あの名場面と名フレーズ

106

特別対談

同じ岡山出身の二人の女性作家が初顔合わせ

あさのあつこ
小手鞠るい

作家という仕事、日本語の魅力



105
WEB文蔵358
筆者紹介362
文蔵バックナンバー紹介365
文蔵年間購読のご案内

274



話題の著者に聞く
加藤 元『泣きながら、呼んだ人』

人に読まれ、喜ばれるために
型にはまらず挑戦し続けた

270

今日マチ子

ペコポコ①⑦

連載漫画

284
火坂雅志

佐和山の城 その二 鬼神の如く⑤⑥
博多に到着した左近に、石田三成が徳川家康一人を名指しして感情的に罵った。

250
池永 陽

「棋理」の真実 向こうがわの蜂③④
命がけの勝負をしたという健吾の申し出に、山川は受けて立つと答えるが。

296
川上健一

ライバル②③
ボール一個だけでプレイする葉奈は、何とか17番グリーンまで漕ぎ着けた。

310
谷村志穂

たき火 いそぶえ②③
鎌倉へと旅立つ武雄は、宇治山田駅で電車を待つ。彼を見送りに来たのは……。

230
原田マハ

屏風祭 異邦人①②
妻の信頼を裏切った一輝。後ろめたさを感じながら、妻の呼び出しに応じた。

204
坂木 司

山の学校③
山で遭難した一年C組の五人は、血痕らしきものを発見し、一時騒然となる。

162
村木 嵐

雁木道 雪に咲く⑤
冬でも使える港建設という悲願達成のため、江戸から河村瑞賢がやって来た。

120
山本 弘

立ちはだかる箆笥の群れ プロジェクトびあの⑤
びあの離伏の時は終わり、真のアイドルへの階段を昇りはじめたのだが……。

332
朱川湊人

人間ボート、あるいは水平移動の夜 箱庭旅団のseason2①
深い眠りの中にいた五味くんは、突然の腹痛という最悪の形で覚醒を強いられた。

42
本城雅人

ドラフト二巡目(後編) スカウト・デイズ
新聞記者の島岡は、堂神と大内の密談の真相を探るべく、その現場を訪れていた。

70
加藤実秋

さまよう炎(後編) アー・ユー・テディ?③
不審火の手がかりが掴めないまま、和子は事件当夜の様子を洗い出すことにした。

連載小説